

オナガウジ

5月8日に保健所から検査依頼がありました。市民から「ガレージに敷いてある飛び石の透き間に虫らしきものがある。」との相談です。オナガウジ(尾長ウジ)とも呼ばれるハエの種類です。尻尾(しっぽ)のように見えるのは、呼吸筒です。

幼虫？

オナガウジ類は、幼虫、サナギ、成虫と発育する完全変態昆虫です。一般的に完全変態を行う昆虫の幼虫とサナギの区別は、明瞭です。ところが、このオナガウジ類は、幼虫の外皮を硬化させ、サナギになります。幾つかの違いはありますが、サナギは、見た目にはほとんど幼虫と同じ形をしています。今回の検査依頼についても幼虫なのかサナギなのか、少し悩みました。ただ、オナガウジ類の幼虫の生息場所は、有機質に富んだ流れのない汚水中です。細長い呼吸筒を水面に出し、ゆらゆらと泳いでいます。サナギになる直前に水中から出てきてサナギになります。相談者が採集したのは、ガレージです。この話からオナガウジ類のサナギと判断しました。

アシトハナアブ

種類を鑑別するためにシャーレに入れて、羽化を待つことにしました。すると、10日後の5月18日に成虫が羽化してきました。種類は、アシトハナアブでした。胸部や腹部の背面に黄色と黒の鮮やかな模様が特徴的です。また、名前のお通り、後脚の腿(たい)節の部分が太くなっているのも特徴です。

幼虫やサナギの相談が持ち込まれたとき、今回のように採集された場所の条件と同じような環境を作り、飼育すると、成虫まで発育することがあります。このことにより、幼虫やサナギの特徴に加え、成虫の特徴も分かり、より精度の高い鑑別ができます。特にサナギは、餌を採ることもなく、環境の変化にも強いことから、羽化させることが比較的容易です。

ハナアブ類

ハナアブ類は、ハエ目のグループです。ハエ目は、触角が長いカ亜目と触角が短いハエ亜目に分かれます。ハエ亜目は、更に、一般的にアブと呼ばれる直縫群とハエと呼ばれる環縫群に分かれます。両者の違いの一つは、成虫が羽化するときのサナギの割れ方です。群の名前で分かるように直縫群は、サナギの背中が直線状に割れて成虫が出てきます。環縫群は、頭部の部分が環状に割れて成虫が出てきます。また、触角にも特徴があります。直縫群の触角は、7節以上ですが、環縫群は、3節で、先端節に端刺と呼ばれる毛が生じています。アシトハナアブのサナギの割れ方は、環状です。触角も3節です。名前がアブと付きますが、実はハエの仲間です。

ハナアブの役割

アシトハナアブや近縁の種類の子虫は、汚水から発生します。ところが、名前にハナ(花)が付くように成虫の多くは、花を訪れ、花粉や蜜を餌にしています。そのため、自然界では、植物の結果を促がす重要な役割を担っています。

翅脈(しみやく)

ハエ目の特徴は、翅(はね)が一对です。ハエ目には、たくさんのグループがあります。成虫であれば、翅(はね)の脈の走り方だけで科という分類の単位まで鑑別可能です。原色ペストコントロール図説第V集を参照してください。アシトハナアブは、シヨクガバエ科のグループです。曲がりくねった独特の翅脈は、シヨクガバエ科の特徴の一つです。

